

1. 「学生による授業評価」のまとめ2018年度 第1・第2クォーター刊行にあたって
2018年12月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
委員長 三浦英俊

南山大学では、1997年度から全学で「学生による授業評価」を実施して今日に至っている。この授業評価の目的は、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育を向上させることにある。

2017年度よりクォーター制が導入され、また、「学生による授業評価」はウェブ入力方式へ変更するとともに設問項目を整理した。2018年度はこれら大きな改革後の2年目となる。

授業評価を行う対象科目は、これまで同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず各クォーター1教員1科目となっている。評価対象科目の選出ルール等の詳細についてはウェブページ(南山大学ホーム>日本語トップ>在学生の皆様>授業改善への取組(「学生による授業評価」))に掲載されているのでご覧いただきたい。また、授業評価結果の概要についても同じウェブページで開示されている。

1 授業評価の実施方法

① 対象科目

各クォーターについて各教員につき1科目が選択され、第1・第2クォーター合わせて合計695科目が授業評価の対象となった。

② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：授業の開始と終了の時間は守られていましたか。

設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。

設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。

設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。

設問8：教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。

設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問10：私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。

設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。

設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。学生は、教員の指示により授業時間内に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。回答は匿名化して処理される。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第1クォーター	第2クォーター
授業評価の実施	2018年5月14日～ 2018年5月30日	2018年7月11日～ 2018年7月27日
集計作業	2018年5月31日～ 2018年6月4日	2018年7月28日～ 2018年8月1日
教員への集計結果の通知	2018年6月5日	2018年8月2日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2018年6月5日～ 2018年6月20日	2018年8月2日～ 2018年8月21日
『「学生による授業評価」のまとめ』の発行	2018年12月	2018年12月

2 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。第1クォーターは50.16%、第2クォーターは46.51%となった。1年に2回の授業評価を行っていた2016年度秋学期の回答率が61.20%であったので、回答率の低下が目立つ数値となっている。これは「ウェブ入力方式への変更」や「クォーター制の導入」などいくつかの要因が影響していると考えられる。

② 報告書提出について

授業評価を行ったあとに教員より自己点検・評価報告書を提出していただいている。2018年度第1・第2クォーターは対象の全教員から報告書の提出があった。

③ 評定平均値について

「全体としての満足度」は第1・第2クォーターともに4.3程度となっており、2017年度第1・第2クォーターからの変化はほとんどない。設問項目2「授業への取り組み・自主的な学習の実行」は、2018年第1クォーターにはじめて4.0に到達した。

表1 回答率(2015年度秋学期～2018年度第2クォーター)

	2015秋	2016春	2016秋	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2
全体	61.04%	65.28%	61.20%	62.44%	47.37%	44.49%	41.94%	50.16%	46.51%
30名以下	85.60%	89.60%	84.94%	79.95%	69.47%	60.56%	58.28%	69.37%	71.37%
31～60名	82.19%	84.67%	80.62%	69.06%	57.20%	50.19%	46.24%	55.99%	50.81%
61～120名	65.67%	69.70%	61.58%	63.43%	49.50%	42.49%	40.53%	50.73%	46.12%
121～240名	52.93%	60.41%	56.33%	60.14%	45.15%	44.58%	37.85%	45.81%	43.18%
241名以上	45.15%	46.86%	45.00%	56.69%	38.28%	37.89%	37.33%	43.69%	38.39%

表2 項目3から14の評定平均値(2015年度秋学期～2018年度第2クォーター)

年度・学期	2015秋	2016春	2016秋	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2
全体	4.41	4.42	4.41	4.25	4.28	4.27	4.32	4.32	4.28
名古屋	4.41	4.41	4.41	-	-	-	-	-	-
瀬戸	4.45	4.45	4.45	-	-	-	-	-	-

※2015秋～2016秋は項目4から18の評定平均値

表3 項目ごとの評定平均値(2015年度秋学期～2018年度第2クォーター)

	設問項目 (2017Q1～)(※1)	設問項目 (～2016秋)	2015	2016	2016	2017	2017	2017	2017	2018	2018
			秋	春	秋	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
1	授業への興味	-	-	-	-	3.96	4.01	4.01	4.04	4.04	4.06
	-	授業への出席	4.28	4.34	4.28	-	-	-	-	-	-
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	授業への取り組み・自主的な学習の実行	4.22	4.28	4.23	3.86	3.91	3.93	3.95	4.00	3.97
	-	-	3.43	3.46	3.46						
3	授業時間の厳守	授業時間の厳守	4.60	4.65	4.62	4.61	4.60	4.59	4.63	4.68	4.57
4	構成や速度が適切	構成や速度が適切	4.52	4.53	4.51	4.33	4.38	4.34	4.38	4.38	4.34
5	到達目標の理解	到達目標の明示(※2)	4.42	4.43	4.42	3.97	4.06	4.04	4.10	4.06	4.07
	-	シラバスの有用性	4.38	4.39	4.38						
6	到達目標の達成(※3)	-	-	-	-	3.87	3.94	3.95	3.99	3.96	3.97
7	教員の姿勢	教員の姿勢	4.59	4.60	4.58	4.47	4.45	4.45	4.48	4.50	4.45
8	教員の声	教員の声	4.58	4.60	4.58	4.48	4.45	4.51	4.55	4.55	4.49
9	理解度への配慮・板書、配付資料	理解度への配慮・板書、配付資料	4.38	4.37	4.38	4.27	4.31	4.29	4.35	4.35	4.31
	-	-	4.40	4.40	4.39						
10	妨げ行為への対処	妨げ行為への対処	4.30	4.34	4.33	4.29	4.27	4.31	4.37	4.38	4.35
11	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導	4.26	4.24	4.25	4.10	4.14	4.13	4.17	4.17	4.14
	-	-	4.31	4.29	4.30						
12	質問や相談の機会	質問や相談の機会	4.38	4.37	4.37	4.19	4.25	4.25	4.27	4.30	4.23
13	知識・理解の深まり	知識・理解の深まり	4.42	4.43	4.40	4.23	4.26	4.25	4.29	4.29	4.27
	-	内容へのさらなる興味	4.29	4.27	4.27						
14	全体としての満足度	全体としての満足度	4.38	4.38	4.37	4.16	4.19	4.17	4.23	4.22	4.19

※1 2017年度より、一部設問項目を新設・統合した

※2 2014年度より学習目標→到達目標

※3 2014年度より試験運用していた設問のため、全体集計を行っていない

3 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところ、教員ごとの結果である。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。

それぞれ、次の内容となっている。

① 科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など

② 2種類のレーダーチャート 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した

結果である。

- ③ 「授業評価結果を踏まえた点検・評価」 各教員が今回の授業評価結果をもとに、結果の自己点検・評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために行われている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を基礎として、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討する。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業を向上させることができれば幸いである。